

2026 年度入試
賢明学院高等学校
入学試験

2026. 2. 10 実施

国 語

(50 分)

- ・ 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- ・ 字数制限があるすべての設問において、句読点は字数に含みます。
- ・ 問題作成の都合上、省略や表記を改めた部分があります。

受 験 番 号

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

勉強したい、と思う。すると、まず、学校へ行くことを考える。学校の生徒のことではない。いい年をした大人が、である。こどもの手が離れて主婦に時間ができた。もう一度勉強をやりたい。ついては、大学のAチヨウコウ生にしていただけないか、という相談をもって母校を訪れる。実際の行動には移さないまでも、^① そうしたいと思っている人はたくさんあるらしい。

家庭の主婦だけのことはいい。新しいことをするのだったら、学校がいちばん。年齢、性別に関係なくそう考える。学ぶには、まず教えてくれる人が必要だ。これまでみんなそう思ってきた。学校は教える人と本を用意して待っている。そこへ行くのが正統的だ。となるのである。

たしかに学校教育を受けた人たちは社会で求める知識をある程度身につけている。世の中に知識を必要とする職業が多くなるにつれて、学校が重視されるようになるのは当然であろう。

今の社会は、つよい学校信仰ともいうべきものを持っている。全国の中学校の九十四パーセントまでが高校へ進学している。高校くらい出ておかなければ……と言う。

ところで、学校の生徒は、先生と教科書にひっぱられて勉強する。自学自習ということばこそあるけれども、独力で知識を得るのではない。^② いわばグライダーのようなものだ。自力では飛び上がることはできない。

グライダーと飛行機は遠くからみると、似ている。空を飛ぶのも同じで、グライダーが音もなく優雅に滑空しているさまは、飛行機よりもむしろ美しいくらいだ。ただ、悲しいかな、自力で飛ぶことができない。

学校はグライダー人間の訓練所である。飛行機人間はつぐらない。グライダーの練習に、エンジンのついた飛行機などがまじってはいは迷惑する。危険だ。学校では、ひっぱられるままに、どこへでもついて行く従順さが尊重される。勝手に飛び上がったたりするのは規律違反。たちまちチェックされる。やがてそれぞれにグライダーらしくなって卒業する。

優等生はグライダーとして優秀なのである。飛べそうではないか、ひとつ飛んでみる、などと言われても困る。指導する者があつてのグライダーである。

グライダーとしては一流である学生が、卒業間際になって、^aさまざまな論文を書く^bことになる。これはこれまでの勉強と、^cいささか勝手が違う。何でも自由に自分の好きなことを書いてみよ、というのが論文である。グライダーは^Bトホウにくれる。突如としてこれまでとまるで違ったことを要求されても、できるわけが^dない。グライダーとして優秀な学生ほど、^eこの状況に慌てる。

^③ そういう学生が教師のところへ「相談」にくる。ろくに自分の考えもなしにやってきたってしかたがないではないか。教師に手とり足とりしてもらって書いても論文にはならない。そんなことを言つて突っぱねる教師がいようものなら、グライダー学生は、あの先生はろくに指導もしてくれない、と口をとがらしてその非を鳴らすのである。

そして面倒見のいい先生のところへかけ込み、あれを読め、これを見よと入れ知恵してもらい、めでたくグライダー論文を作成する。卒業論文はそういうのが大部分と言っても^cカゴンであるまい。

人間には、グライダー能力と飛行機能力とがある。受動的に知識を得るのが前者、自分でものごとを発明、発見するのが後者である。両者はひとりの人間の中に同居している。グライダー能力をまったく欠いていては、基本的知識すら習得できない。何も知らないで独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。

学校はグライダー人間をつくるには適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのすこししかしていない。学校教育が整備されてきたということは、ますますグライダー人間を増やす結果になった。お互いに似たようなグライダー人間になると、グライダーの欠点を忘れてしまう。知的、知的と言つていれば、飛んでいるように^Dサツカクする。

指導者がいて、目標がはっきりしているところではグライダー能力が高く評価されるけれども、新しい文化の創造には飛行機能力が不可欠である。それを学校教育はむしろ^Eヨクアツしてきた。急にそれをのばそうとすれば、困難がともなう。他方、現代は情報の社会である。グライダー人間をすっかりやめしてしまうわけにもいかない。それなら、グライダーにエンジンを搭載するのはどうしたらいいのか。学校も社会もそれを考える必要がある。

ここでは、^④ グライダー兼飛行機のような人間となるには、どういうことを心掛ければよいかを考えたい。

グライダー専業では安心してられないのは、コンピューターという飛び抜けて優秀なグライダー能力の持ち主があらわれたからである。自分で飛べない人間はコンピューターに仕事を奪われる。

(外山滋比古『思考の整理学』より)

問一 二重傍線部A～Eのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部①「そうしたいと思つている人はたくさんあるらしい」の文節数と単語数を算用数字で答えなさい。

問三 a i eの単語の品詞を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア	名詞	イ	形容詞	ウ	形容動詞	エ	助動詞
オ	副詞	カ	連体詞	キ	動詞	ク	助詞

問四 傍線部②「いわばグライダーのようなものだ」とありますが、「グライダー」とはこの文章ではどのような能力を持つものとして扱われていますか。解答欄に合うように九字で本文中から抜き出しなさい。

問五 傍線部③「そういう学生」とありますが、どのような学生のことですか。本文の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問六 傍線部④「グライダー兼飛行機のような人間」とはどのような人間のことですか。「現代」「新しい文化」という言葉を入れて、六十五字以内で答えなさい。

主人公のすみれの家に（母方の）おじいちゃんが短期間住むことになった。すみれはおじいちゃんのこととは好きだが、一緒に住むのは少し窮屈さを感じていた。ある日、すみれは家に誰もいないと思い「ひとりになりたい」と思わず独り言を言った。すると、ガタツと物音がしておじいちゃんが部屋から出てきた。家にひとりだと思っていたすみれはおじいちゃんを傷つけてしまったのではないかと冷や汗をかくが、予想に反しておじいちゃんは「わたしもです。」と話し出した。

おじいちゃんと長く話したのは、それが初めてのことだった。

おじいちゃんは私のトナリに座り、かりんとうをつまんだ。いつもの通り綺麗な洋服を着ていたけれど、スリッパをはいていない足に五本指の古びた靴下をはいていて、それだけで随分だらしく見えた。

「しんどいですよね、正直。」

おじいちゃんは、私に負けない大きなため息をついた。

「娘だし色々気遣ってくれるのは嬉しいんですけど、こうもまっすぐ愛情をぶっつけられたら、すごく疲れるんですよ。私もひとりになりたい。早く長野の家に帰りたいです。」

「そうなの？」

「だってそうでしょう。ここにいと完全なひとりの時間がないし、すみれさんだって気を遣うでしょう。」

「気……そんな、こと、嬉しいよ、おじいちゃんがいてくれて……。」

「いいえ、いいえ、いいんです、無理しなくて。気持ち分かりますから。すみれさんは、私たちにすごく似ている。」

「私たち？」

「私と、あなたのおばあさんです。」

「おばあちゃん？」

おじいちゃんの話は驚くべきことだった。みんなに好かれて優しい、上品なおばあちゃんはおじいちゃんとは、おじいちゃんとは、毒舌家で、ひどい悪態をついて、時々仲良しの友達の悪口だって言っていたのだそう。そんなこと、信じられなかった。

「おばあちゃん？ 信じられない。」

そんなことを言いながら、私はなんだかワクワクしていた。おじいちゃんを見ると、おじいちゃんも、なんだか嬉しそうだった。

「すみれさんも、いい子でいようと思ってるでしょう。でも、疲れますよね。私もそう。娘にすら疲れるんです。あの子には、私たちの良いところしか見せて来なかったから、それはそれは心根の優しい、いい子に育ってしまっただけだからあんな風に愛情を隠さない。まっすぐでしょう。それがねえ、ちょっとしんどいですよね。」

私は思わず、吹きだしてしまった。

「しんどいって、おじいちゃん、ママは実の娘でしょう？ 娘ってかわいいものなんじゃないの？」

「これは正直に言いますとね、娘だからって無条件にかわいいなんてことないですよ。」

「ええ！」

「みんなどうしてあんなに自然に、自動的に家族の愛を信じられるんだろう。ばあさんも言っていました、子どもが生まれたらただちに母性が発動するわけじゃないって。みんなそういうものだから、という押しつけがあるからそうふるまっているだけです。正直ね、私、すみれさんのことも、孫だからって自動的にかわいいと思えないんですよ、申し訳ないですけどね。」

その頃には私は、（①）に爆笑していた。

「孫なんて、（②）の中に入れても痛くないんじゃないの？」

「痛いでしょうよ、入れたくないですよ！」

おじいちゃんのこと好きだった、はずだ。でも、今のおじいちゃんの方が、私はうんと好きだった。そしてきっと、このおじいちゃんの姿をママに見せてはいけないのだということも分かっていった。だからおじいちゃんと私は、協定を取り結んだ。

「係だと思いましょ。」

「係？」

「そうです。すみれさんは、孫係。わたしは、爺係。この一ヶ月、それぞれ、係をきちんとつとめあげませんか。私の娘のために。すみれさんのお父さんのために。」

③そのアイデアは、私にとってものすごく素敵なことに思えた。私たちふたりは、悪い秘密を共有したギャングみたいな気持ちだった。「係だと思ったら、なんだって出来るんです。」

その日から、私とおじいちゃんはそれぞれの係を忠実に、立派にこなすようになった。（中略）

学校でも、私は係をきちんとこなせるようになった。＊さくらちゃんのことをうつとしいと思う瞬間、「さくらちゃんの優しいお友達」をきちんとやろうと思ったら本当に優しくなれたし、先生の前では「優秀なすみれちゃん」をこなすことが出来た。褒められたら「係りをきちんとこなしたことを褒められているのだと思って、素直に喜ぶことが出来た。」

そしてそうやっていても、帰ったらおじいちゃんの前で悪態がつけると思ったら、ものすごくわくわくするのだった。最初はそれって最悪、ものすごく性格悪いよな私、そう思っていたのだけど、おじいちゃんと話して、④そう思わずにすむようになったのだ。

「人はそれを陰口だとか卑怯だとか言うかもしれない。性格が悪いとか。」

「うん、私もそう思う。(A)自分のことが嫌になるの。」

「でもね、すみれさん。すみれさんがそうふるまうのは、さくらさんを傷つけないからでしょう？先生の期待に応えたいからでしょう？」

「うん、そうだね。そう。」

「じゃあそれは思いやりの心からくるんです。」

「思いやり？」

「そうですね。それは誰かを騙しているのとは違う。騙して、それで得をしようとしているのではないのだから。ここが大切です。(B)、得をしようと思って係につくのはいけません。あくまで思いやりのハニイでやるんです。その人が間違っていると思ったら、(C)それを言うことがその人のためになるのだったら言わなければいけないし、相手を傷つける覚悟をもって対峙しなければいけない。でも、その人が間違っていないとき、ただ性格が合わないだけだとか、その人の役割的にそうせざるを得ないんだあとと分かれるときは、その人の望む自分での努力をするんです。」

「難しいけど、分かる気がするよ。」

「すべて分からなくていい、とにかくすみれさんがいい子でいようとするのは、とてもえらいことなんです。それは涙ぐましい努力だし、いい子のふりではなく、本当にいい子だから出来ることなんです。」

「褒められてるんだね、私。」

私は自分のことがずっと嫌だった。みんなの前でいい子のふり(だと思っていた)をして、みんなのことをガキっぽいと思ったり、さくらちゃんのことをうっとうしいなあと思ったり、おじいちゃまが家にいることもしんどいと思っている、そんな自分は卑怯で、悪い子なんだと思っていた。でもおじいちゃまは、そんな私を「本当にいい子だから」と、そう言ってくれるのだ。

「だってもしすみれさんにおじいちゃまが家にいるのすごくしんどい、いつ帰るの、なんて面と向かって言われたら、さすがの私も泣いてしまいますよ。根はいい子なんというの納得出来ない。みんな根はいい子なんだ。それをどれだけ態度に表せられるかですよ。」

私は吹き出した。おじいちゃまにかかると、私はいつまでだってこうして笑っていられるのだった。

「そういえば私、パパが納豆食べるとこ見たらキモイの。でも言わないでいる。」

「でしょう？すみれさんはいい子なんです。正直なことで優しいことは別なんだ。」

パパもママも、こうやって一緒に歩いているラブだつて、まさか私とおじいちゃまが散歩しながらこんな話をしているなんて思わないだろう。もしそれを知ったら悲しむだろうか？うん、驚きはするけれど、悲しまない気がする。でも、絶対に言わない。ママのために。

「そしてね、すみれさん。悪態をつくのは限られた人にだけ、本当に信じられる人にだけです。インターネットに書きこむなんてもつての外、それは本当に卑怯なことですよ。とにかく本人の目に触れる、耳に入る可能性があることは絶対にするべきではない。」

「そうする。私、おじいちゃまだけに。」

「ばあさんも、私以外には一切悪態をつかなかった。みんなを思いやって、みんなが望むことを全力でやって、そして疲れたら私だけにそっと悪態をつく。絶対に誰にも漏らさなかったし、だからそれによって誰かを傷つけることは絶対になかった。」

「素敵だね、おばあちゃま。」

「素敵ではないです。全然素敵ではない。でも私は大好きでした。」

おじいちゃまの言葉を、私は心から信じる事が出来た。ふたりで「素敵な夫婦」として。カンペキにふるまって、疲れたら悪態をつき合うなんて、最高のパートナーだ。そして、そんなことが出来る人と巡り合えるなんて、キセキだ。

「おばあちゃまがいなくなって寂しい？」

「寂しいです。すごく、すごく。」

淡々と暮らしているように見えたとおじいちゃまは、ずっと寂しかったのだ。その寂しさを自分のものだけにして、誰にも言わず、こうやって生きてきたのだ。

(西加奈子「孫係」より)

※ さくらちゃん：すみれの友達。いい子だが、最近うつとうしく感じる事があり、それをすみれは後ろめたく感じていた。

問一 二重傍線部 a d のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 (①) に入る最も適当な語句を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、意識的 イ、積極的 ウ、本格的 エ、刹那的 オ、直感的

問三 (②) に漢字一字を入れて慣用句を完成させなさい。

問四 傍線部③「そのアイデア」とはどんなアイデアですか。「孫」「爺」という言葉を使って三十五字以内で説明しなさい。

問五 傍線部④「そう思わずにすむようになったのだ」とありますがそれはなぜですか。解答欄に合う形で、四十五字以内で説明しなさい。

問六 (A) (C) に入る接続詞を次から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。※同じ記号は一度しか使えないものとする。

ア しかし イ つまり ウ そして エ だから オ ところで

問七 次の会話は本文を読んだ生徒 A から E の五人が内容について話し合っているところである。本文をふまえた発言として合致するものには○、合致しないものには×を解答欄に答えなさい。

生徒 A 「おじいちゃまとすみれはそれぞれの係をこなすだけで仲良くなれてよかったね。」

生徒 B 「おじいちゃまとの交流ですみれは今までの自分の生き方に自信がもてたんだね。」

生徒 C 「おじいちゃまとすみれの考え方は、すみれのママやパパには理解できないと二人は判断したんだね。」

生徒 D 「本当はそれぞれ好きでないことを隠せるおじいちゃまとすみれは似た者同士なのがよくわかったよ。」

生徒 E 「思いやりからくるいい子のふりは、それができている時点でふりじゃなくて『いい子』ということなんだね。」

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昔、ならの帝につかうまつる^{※1}采女^{うねめ}ありけり。顔容貌いみじう^甲きよらにて、人々よばひ、殿上人などもよばひけれど、あはざりけり。その^①あはぬ心は、帝をかぎりなくめでたきものになむ思ひたてまつり^X。さて後またも召さざりければ、かぎりなく^②心憂しとおもひけり。夜昼、心にかかりておぼえ給ひつつ、恋しう、わびしうおぼえ給ひけり。帝は召ししかど、ことも思さず。さすがに、つねには見えたてまつる。なほ世に経まじき心地しければ、夜、^乙みそかにいでて、猿沢の池に身を投げてけり。かく投げつとも、帝はえしろしめさざりけるを、このついでありて、^{※2}人の奏しければ、聞しめしてけり。いといたうあはれがり給ひて、池のほとりに^{※3}おほみゆきし給ひて、^③人々に歌よませ給ふ。

(『大和物語』より)

注 ※1「采女」・・・地方豪族の子女であり、後宮に入り天皇の食事の世話をする女房。

※2「人の奏しければ、聞しめしてけり」・・・人が帝に申し上げたので、お知りになった。

※3「おほみゆき」・・・天皇の外出。行幸。

問一 二重傍線部a「よばひ」b「わびしう」c「いたう」の読みを、全てひらがなの現代仮名遣いで答えなさい。

問二 点線部甲「きよらに」乙「みそかに」の意味として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

甲 ア 清らかだ イ おしとやかだ ウ 綺麗だ エ 柔軟だ

乙 ア 三十歳 イ 突然 ウ すみやかに エ ひそかに

問三 空欄 X には、助動詞「けり」が入る。正しい形を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア けら

イ けり

ウ ける

エ けれ

問四 傍線部①「あはぬ心」とは「結婚しない真意」を指す。その理由として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 帝のことを、顔や姿が怖ろしい人物であると感じていたから。

イ 帝のことを、この上なく立派な人物であると感じていたから。

ウ 帝のことを、親しい兄の様な存在であると感じていたから。

エ 帝のことを、頼りにならない存在であると感じていたから。

問五 傍線部②「心憂しとおもひけり」とありますが、采女はなぜ「心憂し」と思ったのですか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 帝が自分のことを完全に忘れてしまったから。

イ 帝が遠い場所に身を隠してしまったから。

ウ 帝が自分に声をかけてくれなかったから。

エ 帝が他の女性の元へ行ってしまったから。

問六 傍線部③「人々に歌よませ給ふ」とありますが、帝が人々に歌をよませたのはなぜですか。その理由を解答欄に合う形で答えなさい。

【四】 次の〈会話文〉は、総合探究の授業の話し合いの様子である。また、話し合いの後、教師のすすめもあって図書館に行った生徒五人は、〈資料〉の表を見つけた。これらをふまえて、後の問いに答えなさい。

〈会話文〉

教師

それでは総合探究の授業をはじめます。前回の授業で、皆さんに探究してもらうテーマは「大谷翔平選手」であることを伝えました。今日は、各自で考えてきた問いをグループで共有する日でした。では、話し合いを始めて下さい。

佐藤さん

私は、大谷選手について、今この時、世界で何が話題になっているのかを、まずは手軽な方法で知るところからはじめたいなと思

っているのだけれど、みんなはどう？

鈴木さん

私は、身近な人が大谷選手についてどう思っているのかを知りたいと考えていて、クラスメイト対象にアンケートを実施したいな

と思っっているところだよ。

高橋さん

私は、野球の歴史について調べて、大谷選手がいかに歴史的な人物であるのかを確かめたいと思っっているところ。まずは、比較さ

れることの多い「ベールブルース」について、古い時代に書かれた伝記を読んでみようと思う。

田中さん

私はね、大谷選手のメンタルの強さがとても気になっていて、調べてみると「スポーツ心理学」という学問があるようだから、そ

の分野の専門家がどのような研究をして、どのような意見を持っているのかを知りたいと思っっているよ。

伊藤さん

私は、2025年のいわゆる「二刀流」復活に興味があつて、まずは2025年のシーズン開始から終了まで、大谷選手が毎日ど

のように報じられてきたのかを調べてみようと思っっているよ。

教師

みなさん、よく考えてきましたね。それぞれにあった情報収集の方法のヒントを探しに、ぜひ図書館に足を運んでみてください。

〈資料〉
メディア（情報を伝える媒体や手段）の特性

図書	編集者などのチェックを受けてから出版されるため、信頼性は高め。出版後に情報は更新されないの、いつの時点の情報なのか発行年月日で判断する。電子書籍については、電子書籍のみで出版される場合や、編集者や出版社などを經由することなく手軽に出版できる仕組みもあるため、信頼性の判断には注意が必要。
新聞	日刊・週刊などがあり、継続して定期的に刊行されるという特性がある。特に日刊新聞の速報性は高い。新聞（一般紙）は時事や幅広い分野のニュースを取り扱っており、読者が多く影響力が大きい。
雑誌	週刊・月刊などがあり、継続して定期的に刊行されるという特性がある。速報性では日刊新聞には劣るがその分野の比較的新しい情報を掲載する。特定の分野に分かれていることが多い。号ごとに特集が組まれ、一つのテーマについて多角的に情報を得ることができる。
論文	論文雑誌等に掲載され世に発表される。信頼性は著者の専門性のレベルによって異なるが、引用や参考文献を明記してあるため比較的高い。読解には専門的な知識が必要とされる場合も多い。
ウェブサイト	速報性に優れ、発信されている情報をリアルタイムに入手できる。情報に手軽にアクセスしやすく利便性に優れている。しかし、誰でも情報が公開できるため、信頼性の判断には十分な注意が必要。官公庁や研究機関等から発信されている情報は信頼性が高いことが多い。

（登本洋子・伊藤史織・後藤芳文『改訂版 学びの技』より）

問一 〈資料〉を参考に、図書・新聞・論文・ウェブサイトそれぞれの情報源について、最初にその情報源から情報を収集してみると良いと考えられる生徒名を、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。※同じ記号は一度しか使えないものとする。

ア 佐藤さん イ 鈴木さん ウ 高橋さん エ 田中さん オ 伊藤さん

問二 〈資料〉をもとにまとめたメディアの特性について、誤った説明を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一般的に作成から公開までの期間が短いほど、第三者のチェックが入りにくくなる。
- イ 一般的に作成から公開までの期間が短いほど、信頼性が高くなりやすい。
- ウ 一般的に作成から公開までの期間が短いほど、速報性という価値が生まれる。

【五】 次の傍線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにそれぞれ書き直しなさい。

- ① 商品にネフダを取り付ける。

② 品物をノウヒンする。

③ 英語のツウヤクをお願いする。
- ④ 委員長の意見にイギを唱える。

⑤ クラスルールを破る行動はカンカできない。

⑥ イゼンとして方向性が決まらない。
- ⑦ ビミョウな問題に対処する。

⑧ 家族でシユクハクする。

⑨ 友人のショウウカイで会う。
- ⑩ ここは日本でも屈指の観光地である。

⑪ データを更新する。

⑫ 商品の耐久性を確かめる。
- ⑬ 施設の利用料を支払う。

⑭ 世界で起きている紛争を調べる。

⑮ 魅力的なプランを提案する。